.みつばちとおさとう

白坂　ゆのる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
・みつばちとおさとう

【Ｎコード】
Ｎ３６３３Ｃ

【作者名】
白坂　ゆのる

【あらすじ】
とろとろと溶けていくお砂糖のような、かわいかったり、ちょっとＨだったり、そんなお話です。

おわるものなんて、ないのだと、いつぼくは気付いたのだろう。
風鈴が、ひとつだけかなしそうに鳴く。
「いとおしいわ」
「なにが」
ぼくが囁きかえすと、きみは挑発的にこちらをみすえた。
そして、ピンクのルージュで彩った自分のくちびるをぼくにおしつけるのだ。
「ん」
舌で、むりやり口をこじ開けられて、ぼくのなかに何かがおしこまれた。
「ほれぐすり、だよ」
目をほそめて、けははけはと笑う。
でもぼくがその異物を、舌でなぞるとオレンジの味がした。ほんのりとやさしい、オレンジの味だ。
「あたし、ピーチあじ」
「ふーん」
「また、たべさせてあげよーか」
「やだよ」
「舌、かむよ」
「やめてよ」
また君はけははけはと笑った。
せみの鳴き声にまじって、もいっかい風鈴の音がした。
夏が、ぼくたちをつつんでいく。
「でも、いちばんおいしーあめは、京ちゃんだよ」
「いきなり？」
「わるい？」
ぼくをあざけるように、ふふ、と笑ってから君は小脇にあったマシ

ユマロをつかんだ。
「もう、あめなめたの？」
「ううん」
「かんだのか」
「うん」
君の顔がちかくなったと思ったらまた、くちびるをくっつけてきた。
そして今度は舌で器用に、ぼくのあめを持っていった。
「おれんじあじ」
君の口のなかで、がりごり、という音が聞こえた。
無残にあめは、さいごまでなめられることなく噛み砕かれて、壊されてしまった。
「それ、ほれぐすりなんだけど」
ぼくがむっとした顔でつぶやくと、君はまた挑発的にせせらわらった。
「もう、じゅうぶんほれてるよ」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3633c/

.みつばちとおさとう

2010年10月11日02時51分発行